

2021年12月

第166回 中小企業景況調査報告書 (2021年10-12月期) 〈全産業編〉

※D Iとは…

「好転」と回答した企業の割合－
「悪化」と回答した企業の割合。D
I値がマイナスの場合は、悪化した
と回答した企業の数が多いことを示
す

中小企業基盤整備機構 総合情報戦略課

〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1

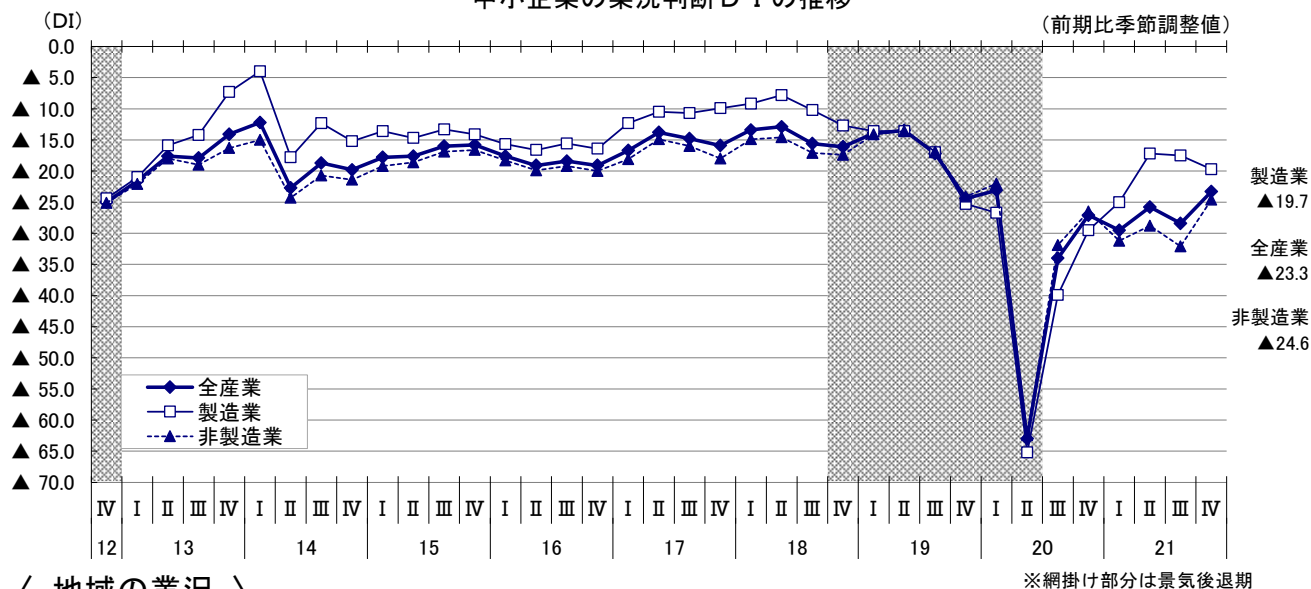
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)

URL:https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

中小企業の業況判断D Iは、2期ぶりに上昇した。

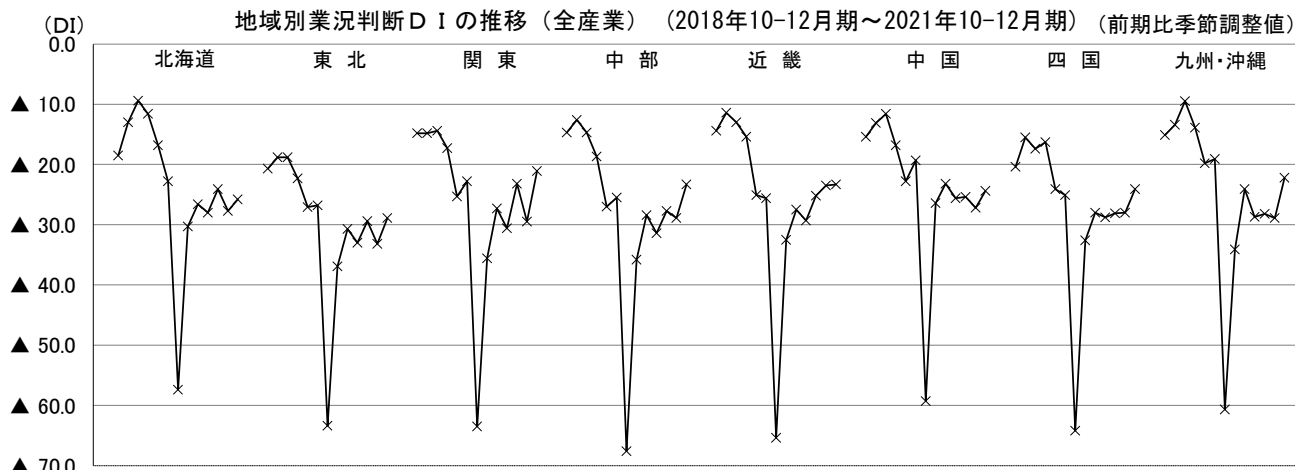
前期と比べて全産業の業況判断D Iは、2期ぶりに上昇した。(▲28.4→▲23.3)

中小企業の業況判断D Iの推移



〈地域の業況〉

関東、九州・沖縄、中部、東北、四国、中国、北海道、近畿の全ての地域でマイナス幅が縮小した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断D I=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

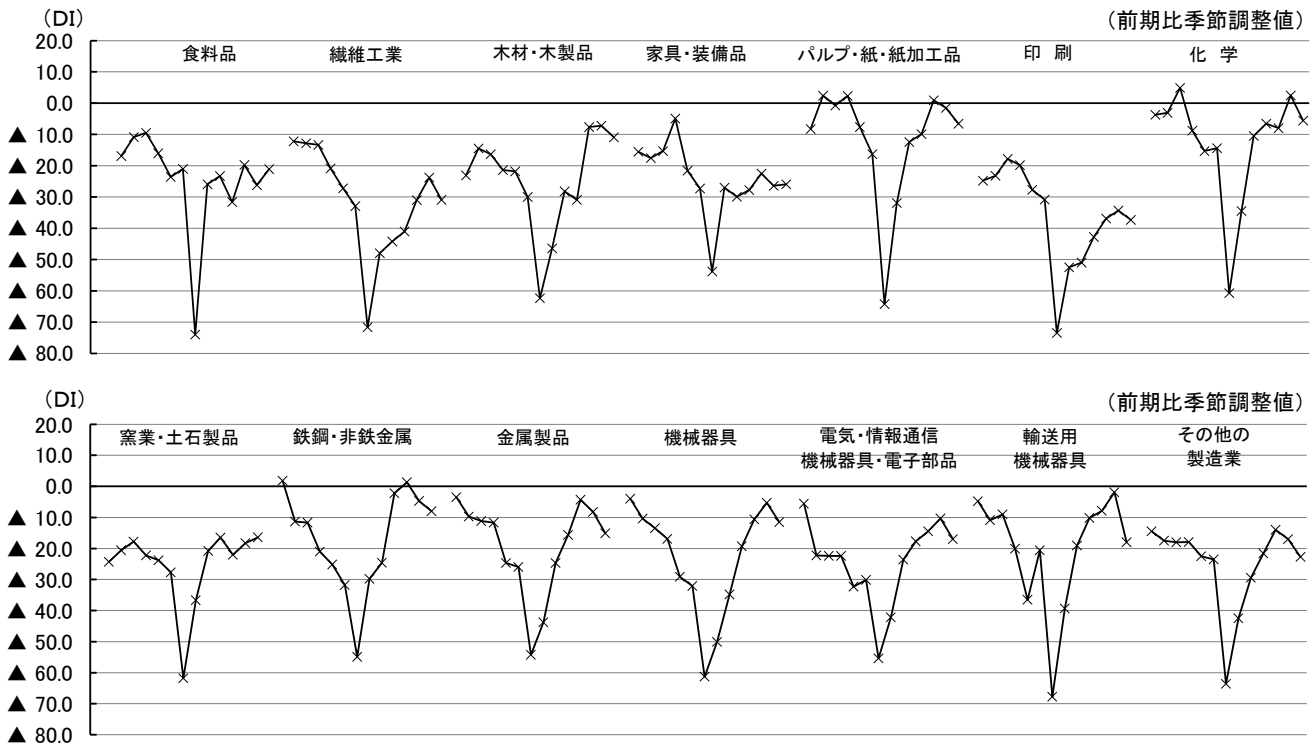
1. 業況判断D I

(1) 製造業

製造業の業況判断D Iは、（前期▲17.5→）▲19.7（前期差2.2ポイント減）と2期連続してマイナス幅が拡大した。

製造業の14業種の内訳では、食料品で▲21.1（前期差5.1ポイント増）、窯業・土石製品で▲16.4（前期差1.9ポイント増）など3業種でマイナス幅が縮小し、化学で▲5.6（前期差8.1ポイント減）とプラスからマイナスに転じ、輸送用機械器具で▲18.0（前期差16.1ポイント減）、繊維工業で▲30.9（前期差7.1ポイント減）など10業種でマイナス幅が拡大した。

製造業 業種別 業況判断D Iの推移（2018年10-12月期～2021年10-12月期）

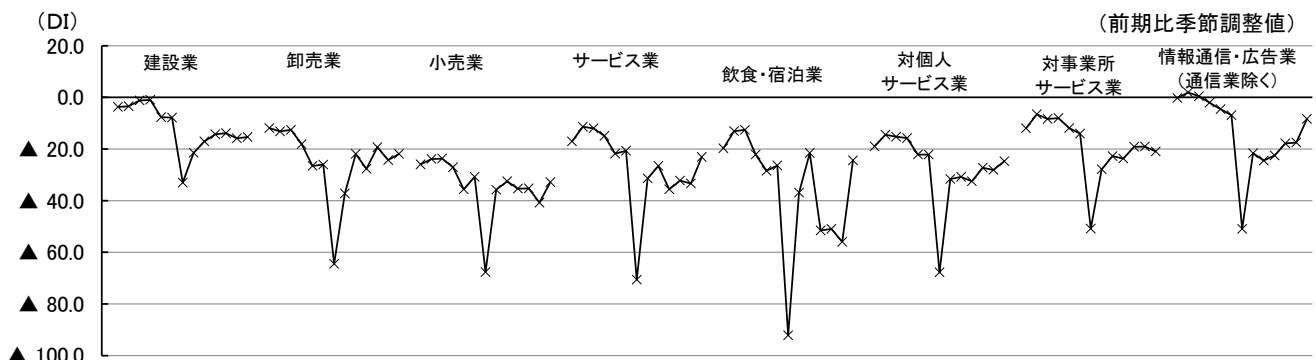


(2) 非製造業

非製造業の業況判断D Iは、（前期▲32.1→）▲24.6（前期差7.5ポイント増）と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別に見ると、サービス業で▲23.1（前期差10.3ポイント増）、小売業で▲32.9（前期差7.9ポイント増）、卸売業で▲21.9（前期差2.4ポイント増）、建設業で▲15.4（前期差0.5ポイント増）といずれもマイナス幅が縮小した。

非製造業 産業・業種別 業況判断D Iの推移（2018年10-12月期～2021年10-12月期）

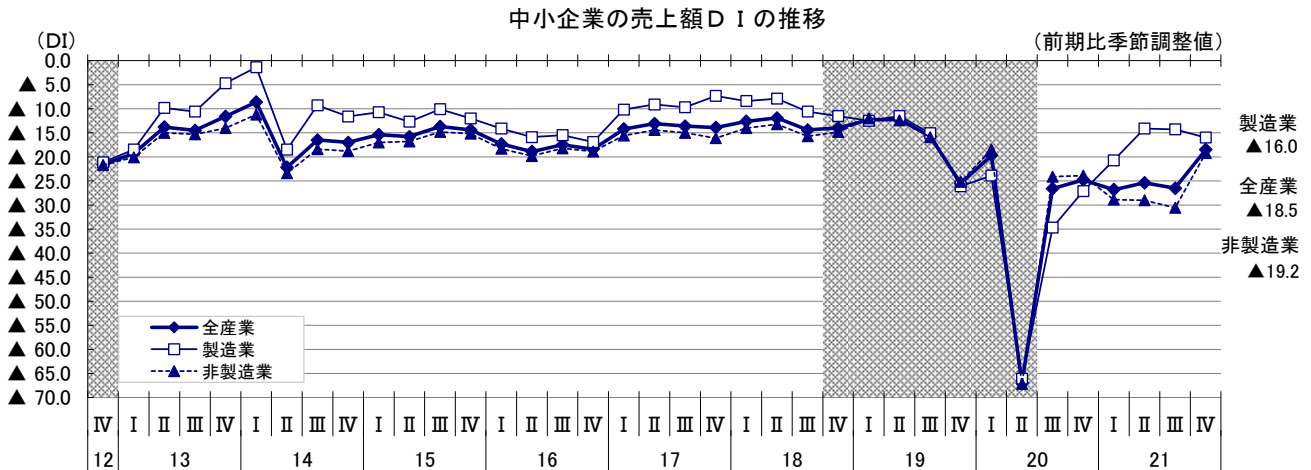


(注) 「対個人サービス業」は、洗濯・理容・美容・浴場業、自動車整備業等の9業種。
「対事業所サービス業」は、道路貨物運送業、倉庫業、廃棄物処理業等の10業種。

2. 売上額D I

全産業の売上額D Iは、（前期▲26.5→）▲18.5（前期差8.0ポイント増）と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

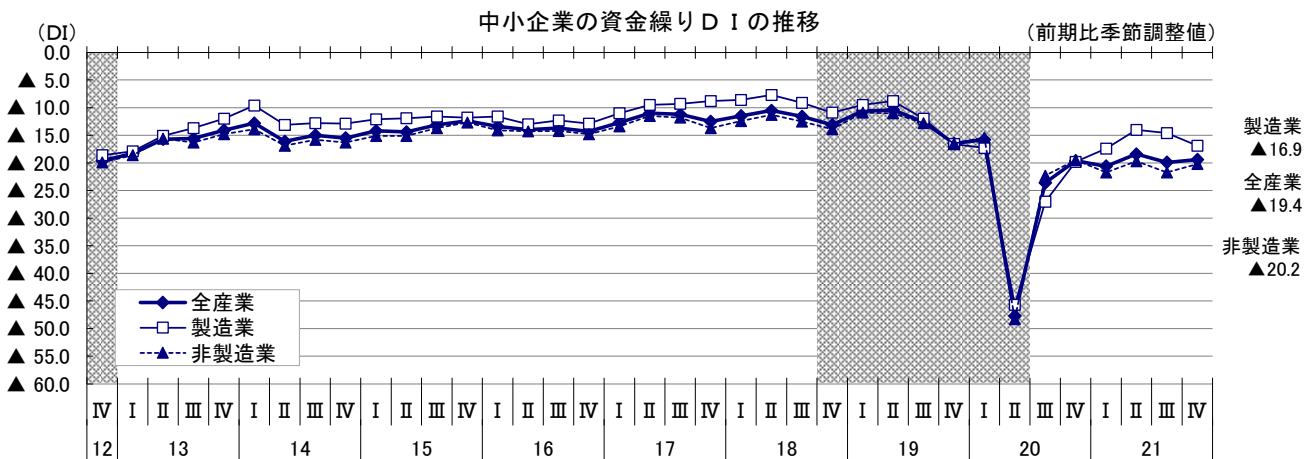
産業別に見ると、製造業で（前期▲14.3→）▲16.0（前期差1.7ポイント減）と2期連続してマイナス幅が拡大した。一方、非製造業で（前期▲30.6→）▲19.2（前期差11.4ポイント増）と4期ぶりにマイナス幅が縮小した。



3. 資金繰りD I

全産業の資金繰りD Iは、（前期▲19.9→）▲19.4（前期差0.5ポイント増）と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別に見ると、製造業で（前期▲14.6→）▲16.9（前期差2.3ポイント減）と2期連続してマイナス幅が拡大した。一方、非製造業で（前期▲21.7→）▲20.2（前期差1.5ポイント増）と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。



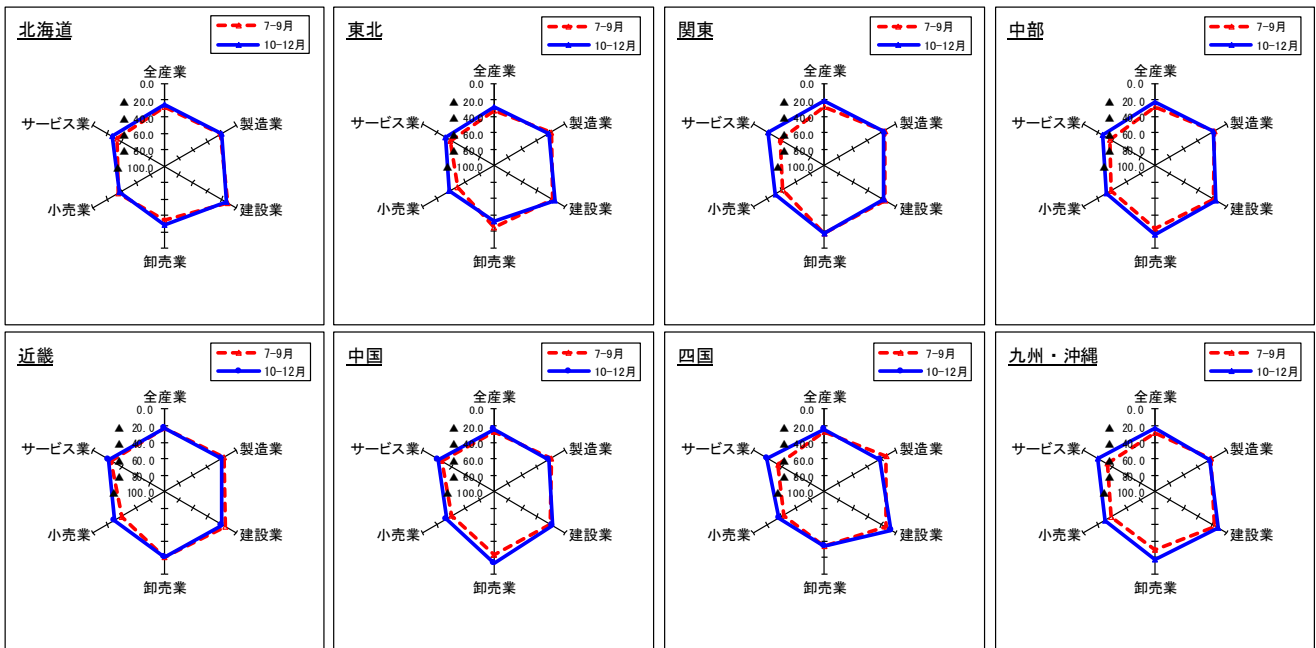
4. 設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、全産業で18.3%（前期差0.6ポイント増）と増加した。

設備投資実施企業割合（実施企業／回答企業×100） 単位：%

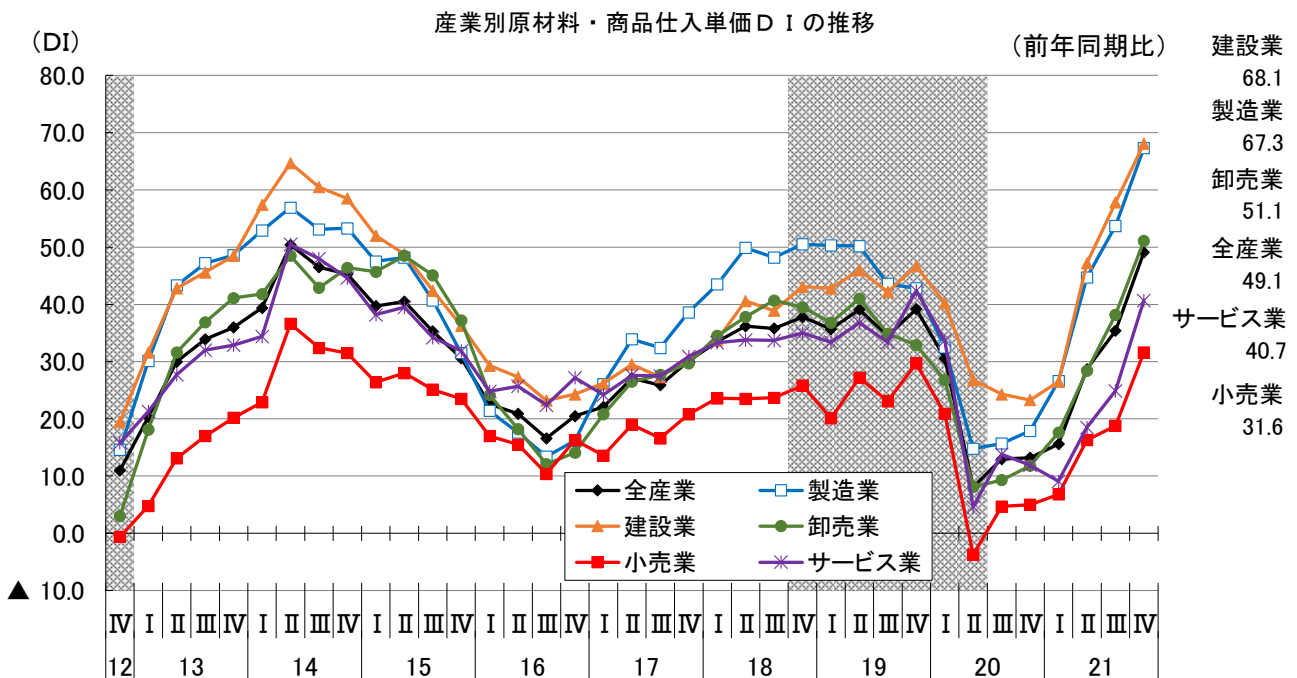
	実 績					来期計画
	2020年 10~12月期	2021年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	2022年 1~3月期
全産業	19.7	17.2	17.7	17.7	18.3	17.5
製造業	21.1	19.3	19.5	21.3	21.5	22.7
建設業	23.0	21.7	22.9	20.0	20.6	18.5
卸売業	21.1	19.3	19.7	18.0	18.6	19.7
小売業	15.1	12.2	12.4	12.2	12.0	11.1
サービス業	20.7	17.2	17.8	18.2	19.5	17.4

5. 各地域における産業別の動向



<トピックス> 原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

全産業の原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、49.1（前期差13.7ポイント増）とプラス幅が拡大した。また、産業別に見ると、サービス業で40.7（前期差15.8ポイント増）、製造業で67.3（前期差13.6ポイント増）、卸売業で51.1（前期差12.9ポイント増）、小売業で31.6（前期差12.8ポイント増）、建設業で68.1（前期差10.3ポイント増）とすべての産業でプラス幅が拡大した。



[調査要領]

- (1) 調査時点：2021年11月15日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,911のうち有効回答数18,238（有効回答率96.4%）